オーガストオフィシャルハンドブック　Vol.2　　2002年冬コミ号

Princess Holiday
～転がるりんご亭千夜一夜～

… and NEWSOFT

「月は東に日は西に ~Operation Sanctuary~」
先行設定資料集

AUGUST

COPYRIGHT (C)AUGUST 2002

Preface まえがき

こんにちは。2002年9月に『Princess Holiday ～転がるりんご亭千夜一夜～』を発売したオーガストです。
この度は、オーガストオフィシャルハンドブックVol.2をお手に取って頂き、本当にありがとうございます。

さて、今回の冊子は『プリホリ』のショートストーリーと、2003年発売の新作ご紹介です。

ショートストーリーを書いた内田ヒロユキは、エンターブレイン様より発行の「テックジャイアン」誌の
デジタルコンテンツ『オーガスティックエトセトラ』の大部分を担当していた者です。

そして何とか、新作『月は東に日は西に～ Operation Sanctuary ～』のご案内が間に合いました。
まだまだ生まれたばかりの企画です。
今回ご紹介するのは、あらすじとメインキャラクターの情報だけとなりますが、今後は、彼女達との
ストーリーもよろしくお願いできればと思います。

それでは、多少のお時間を拝借致しますが、お楽しみ頂ければ幸いです。

2002年12月吉日　オーガスト

プリホリショートシアター
聖グラスコヴィッツの屈辱
内田ヒロユキ
…3

オーガスト次回作
『月は東に日は西に』先行設定集
…7

スタッフ対談第２回
榊原拓＆べっかんこう
…14

- プリホリショートシアター -

聖グラスコヴィッツの屈辱

内田ヒロユキ

「お掃除は～心も～キレイに～♪」
朝の礼拝が終わった教会に前衛的な歌声が響く。お世辞にも上手とは言えないが、教会の隅々にまで広がって染み込んでいくような、透明感と確かさを持っている。
歌声の主は、俺の妹、シルフィ＝クラウド（フィー）だ。
俺はと言うと、真摯に働くフィーの頭上で、屋根板修理を名目にした青空観察にかまけている。
旅から帰った直後、俺はフィーの労働量を軽減する大型新人として期待されたが、今ではちょっと働くだけで驚かれるところまで評価を急下降させ、むしろ青空観察者としての地位を着実に固めようとしている。地道な努力の成果か、気温による微妙な空色の変化まで見分けられるようになってきた。

「お兄ちゃ～ん、さっきからカナヅチの音が聞こえないよ～」
「はいはい～」
「返事は一回だよ～」
「……はい～」

こんなやり取りを5回は繰り返しただろうか。日も高く上り昼食の時間が近づいた頃。
「きゃ～……っ!!」
穏かな雰囲気をフィーの悲鳴が切り裂いた。
俺は反射的に立ち上がり、転がるように梯子を駆け下りる。日頃はフィーのことを大して可愛がりもしないのに、こういう時は俊敏に体が動いてしまうのが少し可笑しい。

バタンッ

勢いよく教会に飛び込むと、フィーが床にへたり込んでアワアワ言っている。視線の先ではネズミが一匹、つぶらな瞳でフィーを見つめていた。
「お、お兄ちゃん……ね、ねずねずねず……」
「んん？　ちゅ、ちゅちゅ～☆」
ネズミ挨拶をしてみる。突き出した唇が、かなり可愛かったと思う。
「お兄ちゃんが……壊れちゃったよ～」
あまりウケなかった。補給線を断たれた前線の兵士のように、力なくうなだれるフィー。そんな俺達をネズミがじっと見つめている。
「悪いがネズミさん、見世物じゃないんだ」

「ちゅ？」
「お兄ちゃん……早く追い払ってよ～」
「お前なぁ……ネズミなんて珍しくもなんともないだろ？　毎晩、天井裏を走ってるぞ」
「……でも、でもでもでも～」
「あんまり怖がっちゃ、ネズミだって嫌だろうに……なあ？」
「ちゅう～」
「ほらな」

静寂。
ネズミと自然に意思疎通している俺につっこむか、ネズミに対する恐怖を主張するか戸惑っているようだ。フィーの頭の中で、両者がせめぎ合っているのが分かる。
「……と、とにかくダメなの～」
回線が焼き切れたらしい。妹の分かりやすさは、兄として少し残念だ。

ぎいっ

「スゴイ声が聞こえたけど、大丈夫？」
レイ姉を先頭に、レティ、エル、ラピス（&ピア）が教会に入ってきた。
「ああ、ネズミが出てさ……フィーが怖がっちゃって」
「わぁ、ネズミさんですか？」
レティが瞳を輝かせながら周囲を見回し、フィーの足元のそれに気づく。
「可愛いですね～」

「……そうか？」
「ええ、あの瞳が……尻尾が……みんな可愛いです」
「もしかして、ネズミを見るのは初めてか？」
「そ、そんなことありませんよっ!?」
どうやら初めてだったらしい。
「お城にはネズミはいないのか？」
レイ姉に聞こえないように、そっとエルに尋ねる。
「ネズミが好んで住むような環境じゃないからね。厨房にはいるかもしれないけど」
「エルっ、私はネズミくらい、見たことありますよっ!!」
「あ……レティ、申し訳ありません」
「ちゃんと、触れるんですからねっ」
「レティ、ご無理はなさらずに」
「触れるんです～（涙）」
論点がズレまくった言い合いが展開されている。放っておいた方がよさそうだ。

「お兄ちゃん……できれば早目に追い払ってほしい……な」
あっけにとられていたフィーが、申し訳なさそうに口を開いた。
「あ？　ああ……任せとけよ」
前に進み出た俺を、ちっちゃな黒マントが制す。
「私がもらってもいいかな？　ちょうど足らなくなってたんだ」
使用目的は問うまい。
「……さいですか、どうぞどうぞ」

「ラッピーには悪いけど、食べ物を扱ってる身としては、ネズさんは殲滅しなくちゃならないのよね」
レイ姉が、ずずいと立ちふさがる。
「私が捕まえれば、それでいいんじゃない？」
「こっちには、チーズの恨みもあるしねぇ……」
……。
「レイ姉、ホントは食用だったりして」
「ぷちーん」
「うわ、早っ!?」
「クーリぼ～う」
頭を抱えられ、脳天をグリグリされる。豊満な女性の柔らかさと痛みとが入り混じった感覚に、天上界への螺旋階段を上りかける。
そんな俺達の眼前を、ラピスが通り過ぎる。
「じゃ、私がもらっちゃうよ。……ピアお願い」
「にゃんごろぅ～」
闘争本能に火がついているらしく、いつもと鳴き声が違う。攻撃的な表情のピアが、一歩、また一歩と前進すると、今まで微動だにしなかったネズミもさすがに後退する。
ネズミが壁際に追い詰められた。ピアは余裕たっぷりに間合いを詰める。
「にゃっにゃっにゃっ」
「ちゅうぅぅぅ～」
その時、二匹の間に立ちふさがる影があった。日の光を受けて金色の光を放つポニーテール、真っ赤なリボン。……レティシア＝アップルその人だ。

「ラピスさん、待ってくださいっ!!」
「……なに、血相変えて?」
「ネズミさんがかわいそうです」
「ん～、必要なんだから仕方ないよ」
「この子だってお父さんとお母さんがいるんです。兄弟だって百人くらいいるかもしれません。みんな、この子の帰りを首を長くして……」
「そうかもしれないけど……」
「絶対ダメです」
……。
ラピスは大げさに肩をすくめ、はあ、とため息をつく。
「よく分からないけど、そこまで言うなら……ピア、もういいよ」
「……にゃ……」
「コラ、もういいの」
「……」
じっと動かないピア。懇願するようなレティの視線に促され、俺が口を挟む。
「自分の使い魔だろ。なんとかならないのか?」
「ピアは使い魔じゃなくて、友達だよ。それに、このネズミは長年探してた仇敵なんだって」
「……じゃあ」
「う～ん、止められないかな……ゴメン」
「……くらっ」
よろめくレティをエルが受け止める。
「クリフ、なんとかしてよ」
「普通に追い払えばいいだろ」
「それは分かってるんだけど……レティを放っておけないでしょ」

「へいへい」
しぶしぶながら、殺気立ったピアを目で威嚇する。ピアはしばらく俺をにらみつけていたが、諦めたのか、ラピスの足元へと帰っていった。
「ちゅ、ちゅ、ちゅう～」
ネズミが俺の肩に駆け上り、感謝の接吻を降らせてくる。
「おいおい、勘弁してくれよ」
「ちゅ～」
そんなネズミを優しく両手で包み込む。手の中に心地よい温もりと拍動を感じる。
「クリフさんっ」
いつの間にか眩暈から立ち直ったレティが、期待いっぱいの表情で俺を見上げる。
俺はレティの前で、閉じていた手の平を開いた。ネズミがきょとんとした表情でレティを見つめる。
「ちゅう」
「持ってみてもいいですか?」
「ああ、あんまり強く握るなよ」
おずおずと差し伸べられたレティの手に俺の手を近づけると、ネズミはそこが安全な場所だと知っていたかのように、嬉々としてレティの掌に飛び移った。
「わあぁぁぁ……」
感無量といった表情のレティ。
一同から思わず笑みが漏れ、教会に柔らかな雰囲気が広がる。ネズミを怖がっていたフィーも、ネズミを捕ろうとしていたレイ姉も、ラピスも

……微笑を浮かべてレティを見つめている。物事に対するレティの反応は、いちいち素直で、みずみずしくて、それを見ている人を穏やかな気持ちにさせてくれる。これは一種の才能なのかもしれない。

「ちゅちゅちゅ～」

「ふふ、可愛すぎて、食べてしまいたいくらいです」

「そうだな。俺も旅の途中で、ずいぶんお世話になったよ。貴重な蛋白源だからな」

……。

「……クリフさん？」

「ちゅちゅっ!!」

「あっ!?」

一瞬にして氷点下になった雰囲気を察し、ネズミはレティの手から飛び降りると目にも留まらぬ速さで扉の隙間から庭へと駆け出していった。

ふと、女性陣に囲まれている自分に気がついた。非難の視線が四方から俺を貫く。

「クリフさん……ひどいです」

「ははは、冗談だよ、冗談。ちゅ～ちゅ～☆」

ファニーなネズミ謝罪。

ちゃき

エルが白刃をきらめかせた。

「やだなぁ……みんな笑ってよ、ホラ、可笑しいだろ？　ちゅっちゅう～!?」

ぽつりとエルがつぶやく。

「……無様な……」

「し、仕方が無かったんだ、あのとき食べなかったら……」

エルの姿が視界から消える。

どすっ……。

……腹部に重くて熱い感覚が走り、息が詰まった。エルはすれ違いざまに剣の柄を俺の鳩尾（みぞおち）に叩き込んだらしい。いつの間にか、俺の顔の横にエルの顔があった。

「安心して……峰打ちよ」

「……お前の剣に……峰はないだろ……」

「ごめんね。事件には……犯人が必要なのよ」

「ふっ、それじゃ、俺が適任だな……」

肺に溜まった最後の息で、自嘲気味なセリフを吐き出す。

「……おやすみクリフ」

その言葉を合図に、俺の体は、堅く冷たい教会の床へと崩れ落ちていった。

おわり

オーガスト第3作

月は東に日は西に

~operation sanctuary~

先行設定資料集

～あらすじ～

「なおくん、そろそろ起きないと、遅刻しちゃうよ」
今日から新学年、新学期。幼なじみの保奈美は、「もう子供じゃないんだし」と、何度言っても起こしに来る。
丘の上にある『蓮美台学園』で、今年から２年生になる俺たちは、通い慣れた通学路を歩き始めた。

「直樹ーっ、先に行くからねっ」
脇を追い抜いていく従妹の茉理。両親を事故で失って以来、俺－久住直樹－は、叔父夫婦の家に世話になっている。
当時、同居することに大反対した従妹の茉理も、この春から蓮美台学園に入学してきた。
そんなありふれた日々。……のはずが。

どさっっ

学園の屋上で昼寝を決め込んでいた俺に、空から、女の子が降ってきた。
「……祐介？」

その娘は転校生として、翌日からクラスメートになった。
しかも、俺のことを誰かと勘違いしているようだ。

ゆっくりと時は流れ、変わるものと変わらないものが、俺の周りを流れていく。
繰り返されるありふれた日々が、少しずつ、動き始める。

オーガストがお送りする
東奔西走スクールライフ恋愛AVG、
2003年(時期未定)発売予定です

天ケ崎 美琴（あまがさき みこと）

「でもほら、同じ顔をした人間って、世の中に3人はいるって言うじゃない？」

身長　：160cm
サイズ：81／58／81
血液型：B

主人公が屋上で昼寝をしていると、空から落ちてくる女の子。翌日からは、何事も無かったかのように、主人公のクラスメートとして学園に通い始める。出会い頭に、主人公のことを誰か知り合いと間違えたようで、そのため主人公に興味を持ってついてくる。運動が全般的に得意、ただ水泳だけは苦手。

■性格
義理人情に厚く、好奇心も強いお人好し。隠し事は苦手で、とても素直。そのため、よく主人公にからかわれることに。不器用で失敗も多いが、何事にも前向きに一生懸命頑張る。困っている人は放っておけない。

● STAFF'S MEMO

美琴は、突然主人公の目の前に現れます。主人公の日常を、少しずつ動かしていく役目になるでしょう。少しドジですが、根はものすごくいい子です。からかい甲斐は一番ありそうです（笑）

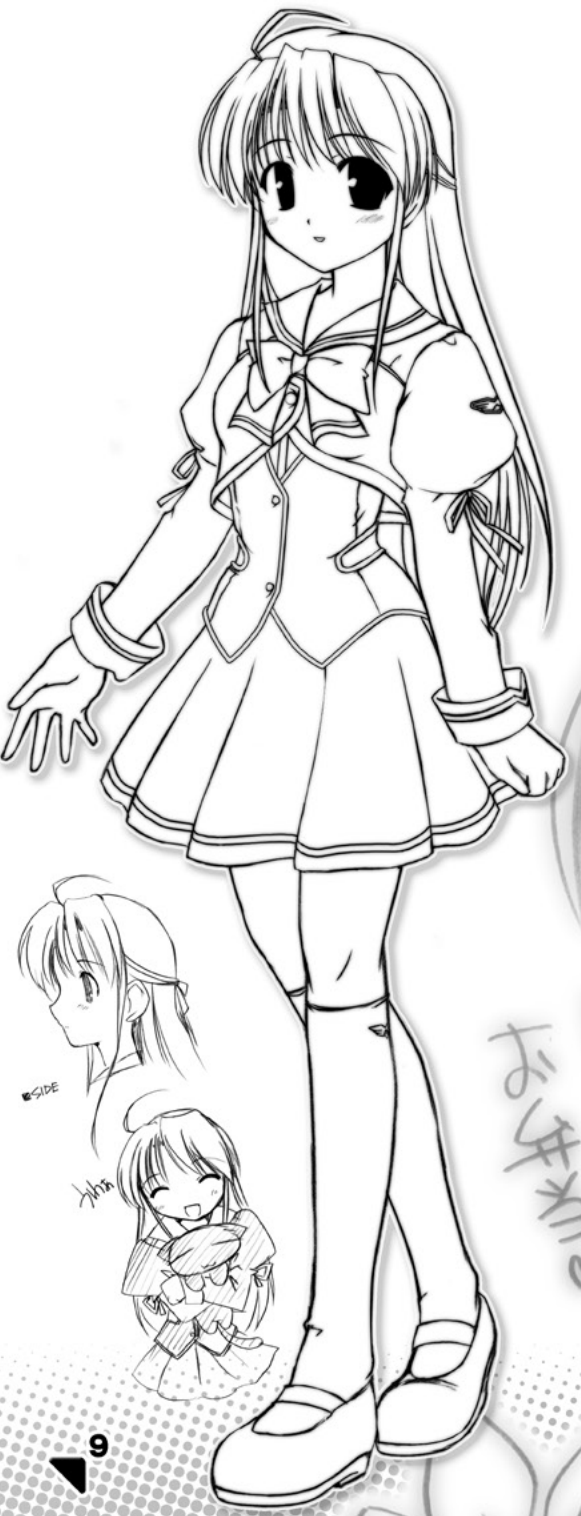
藤枝 保奈美（ふじえだ ほなみ）

――「あっ、なおくん。帰り道で一緒になるのは久し振りだね」

身長　：159cm
サイズ：85／59／86
血液型：O

主人公の幼なじみ。毎朝、主人公（と茉理）を起こしに来るなど、世話焼きなところは昔からずうっと変わらない。主人公と同じく蓮美台学園の2年生で、クラスも同じ。クラスでは保健委員をやっている。成績も優秀だが、それを自慢したり鼻に掛けたりすることは無く、目立たない割に男子には密かな人気がある。料理の腕は一流。家では犬を飼っている。

■性格
優しくて世話好き。落ち着いた雰囲気を持ち、家庭的なしっかり者。少しほんわかとした性格で、一緒にいると相手に安心感を与えるタイプ。



● STAFF'S MEMO

主人公とは不釣合いなくらいに、とてもよく出来た幼なじみです。クラスの男子の人気もかなりのもの。でもそんな事は気にせず主人公の世話を焼いてくれます。こんな幼なじみが欲しい……。

橘（たちばな）ちひろ

――「少しでも……学園の中にお花が増えれば いいかな、って思うんです」

身長　：１４９ｃｍ
サイズ：７１／５４／７４
血液型：Ａ

蓮美台学園の１年生。園芸部に所属。茉理とは性格が正反対だが親友の間柄であり、よく一緒にいるのを見かける。実家は遠くにあり、蓮華寮（学園の寮）に住んでいる。
よく茉理が家に遊びに連れて来ることから、主人公も何度か話をしたが、人見知りする性格らしい。
校内では、温室や花壇にいるのをよく見かける。

■性格
いつも控え目で、謙虚な性格。自分の考えはしっかりと持っているが、その気持ちを表に出せない。健気で我慢強いが、不意の出来事に弱く、茉理を羨ましく思っている。

● STAFF´S MEMO

控え目な性格もそうですが、この娘はショートカットと小さい身長がチャームポイントです。そして、花を育てています。少し人見知りします。……どうか守ってあげて下さい。

渋垣茉理（しぶがきまつり）

――「あたしの分はしなくていいからね、洗濯っ！！」

身長　：155cm
サイズ：76／56／79
血液型：B

主人公が世話になっている叔父の娘。つまり従妹。主人公とは当然同居している。今年から、主人公たちが通う蓮美台学園に入学。早速「憧れだった」というカフェテリア（蓮美台学園の学食）で、運営委員としてバイトに明け暮れる日々。幼い頃は、主人公によくからかって遊ばれていたため、5年前に同居するようになった時は、大反対をしていた。

■性格
元気でハキハキしていて、無邪気。時々意地を張り過ぎることも。頭の回転は速く、思ったことはしっかり口にする。自分より弱い相手にはとことん優しい。

● STAFF'S MEMO

周囲の空気を一瞬で明るくしてしまうような女の子、それが茉理です。くるくると風にたなびく髪がチャームポイント。今日もカフェテリアで元気に働いています。

野乃原結（ののはら ゆい）

「そのまま世話を焼いちゃうなんて、久住君らしいですね」

身長　：138cm
サイズ：64／51／68
血液型：AB

主人公のクラスの担任。天文部の顧問。今年から蓮美台学園の先生になった。担当科目は古典。初めて受け持つクラスということで張り切っている。存続の危機にある天文部の顧問として、幽霊部員の主人公を何とか活動させようとする。
身長が異様に低いので評判になり、本人も少し気にしている。
黒板の上の方に文字を書けない。

■性格
物腰は穏やかで、授業はしっかりと行う常識人。居丈高なところが無く、生徒によく構われる。よく気が付く「目配り上手」だが、時々とんでもないドジなことをしたりもする。

● STAFF'S MEMO

結先生は見た目は少し幼いですが、とてもしっかりした先生です。
誰にでも分け隔てなく接してくれ、生徒からの信頼も厚いです。
でも、黒板の上の方には字が書けません（笑）

仁科恭子（にしなきょうこ）

「久住は……そういうとこ、
たまに優しかったりするからね」

身長　：167cm
サイズ：89／60／88
血液型：A

蓮美台学園の保健の先生。園芸部の顧問。保健室の主として、コーヒーセットや茶菓子を充実させるなどして、楽しそうに過ごしている。よく野乃原先生もここに来ているようで、姿を見かける。相談によく乗ってくれるため、生徒に人気がある。近所に住んでいるのか、たまに朝や帰りに一緒になることがある。

■性格
サバサバした性格のため、あまり校則に厳しくなく、面倒見もいい。オープンで自由奔放に振舞っているが、無理をし過ぎたり、少しの失敗にくよくよすることがある。

● STAFF´S MEMO

どんな相談にも熱心に耳を傾けてくれる恭子先生は、学園のお姉さんといった役割です。真っ白な白衣が彼女のシシボル。主人公の悩みにも真剣に答えてくれるでしょう。

チョコ

べっかんこう（以下べ）： こんばんは。べっかんこうです。
榊原拓（以下榊）： こんばんは。榊原です。
べ：今日はオーガストオフィシャルハンドブックも2冊目ということで……また対談ですね。
榊：何だかつい最近もやった記憶もありますが、気にせず行きましょう。夜中ですが。
べ：で、今回のお題は何ですか？
榊：新作『プリホリ2～転がるりんご亭諸行無常～』についてです。
べ：全っ然、間違ってるんですが。って言うか「諸行無常」ってなんですか？
榊：レティの歌やら何やらで大儲けしたりんご亭が、20階立ての本社ビルを建てて、FCチェーン化する話です。
べ：与太話はそこら辺にして、早く対談を始めましょうよ～。
榊：しかし順調な経営も長くは続かなかった。本社に迫り来る宇宙怪獣軍団！ 飛べラピス！ 守れフィー！ 戦えエル！ 盗めレイ姉！ 歌えレティ！
べ：いいかげんにしてください。
榊：すいません……。
べ：何よりレティが役に立ってないじゃないですか(笑)！
榊：そこかよ突っ込みどころ(笑)
べ：……はっ！ まさか歌が戦いの鍵なのですか？
榊：そりゃもちろんっ！
（しばらくの間、かなりどうでもいい雑談）
榊：……失礼しました。
べ：あまり時間も無いってのに。
榊：ええと『新作について』ですね。但し、まだ固まってない部分には触れちゃダメ、とのことです。
べ：何も喋れないじゃないですか(笑)
榊：……じゃあ、キャラの名前やデザイン決定までの話なんかは？
べ：決定するまで、随分と揉めましたよね。
榊：「僕の頭の中では、もうこのキャラはこれで動いてます」とか(笑)
べ：プリホリと違って、4人も同じ制服のヒロインがいますからね。
榊：……そう言えば、今回は、プリホリよりもヒロインが1人多いんです。
べ：6人に固まるまでも揉めましたねー(遠い目)
榊：確かに(笑)。みんな早くも愛情深すぎです。あんな会議やってたら、どんどんスケジュールが遅れますって。
べ：いやしかし！ あの厳しい過程を経てこそ、みんなに愛されるキャラクターになるんじゃないかと。
榊：作り手が愛していないキャラクターを、ユーザーさんに「好きになってくれ」ってのは違いますよね。
べ：毎回言ってますが、僕にとってはみんな可愛い娘のようなものなのです。みんな愛してますよー。
榊：こっちだってそうです(笑)！……ではそろそろ締めのお言葉を。
べ：ういっす。では、新作『月は東に日は西に』もよろしくお願いします。
榊：また長いタイトルですよね。何か略称を考えないと。
べ：じゃあ……『はにはに』。
榊：本当にそれでいいんですか？
べ：タイトルのひらがなだけ並べてみました。駄目？
榊：いや、楽しそうですけどね。腰が砕けたと言うか(笑)。
べ：えー、そんなわけで、新作『はにはに』をどうぞよろしくお願いします。

2002.12.15 AM4:00 社内にて

Postscript

あとがき

『プリホリ』発売から3ヶ月。毎日届く、お買い上げ頂いた
皆様からのアンケート葉書を、一通一通ありがたく
拝読しております。
新作『月は東に日は西に ～ Operation Sanctuary ～』の
制作にあたっても、アンケート葉書はスタッフのやる気の素。
お送り頂いた方々には、心より御礼申し上げます。
（お礼の気持ちを、何か形にできればと考えているのですが…。）

さて「オーガストオフィシャルハンドブック vol.2」では、
新作について発表させて頂きましたが、いかがでしたでしょうか？
今後も、制作が進むにつれて、より多くの情報をご提供
できると思います。現在、スタッフ一同じっくりと、しっかりと、
制作を進めております。是非ご期待下さい。

それでは、今回はこの辺で。
今後も、私達オーガストを暖かくお見守り頂ければ幸いです。

2002年12月吉日　オーガスト スタッフ一同

オーガストオフィシャルハンドブックVol.2
2002年冬コミ号

発行：2002年12月28日
著作：オーガスト

連絡先：kino@august-soft.com
WebSite：http://august-soft.com/

オーガストオフィシャルハンドブック　Vol.2

Princess Holiday

～転がるりんご亭千夜一夜～

2002年冬コミ号

AUGUST

COPYRIGHT (C)AUGUST 2002